

武庫川リバーミーティングに出席して

2004.09.06.

(技術士：河川・砂防並びに海岸) 大北 健次郎

9月4日に開催のリバーミーティングを傍聴して、所感と提案をします。

所感

行政当局及び委員会は問題意識を認識し未だ充分なる検討してない事に尽きると思います、今回は地域住民から情報の収集と委員会のアピールにあるとは思いますが、出席者の意見は既に行政当局が情報収集して調査されて居り、唯単に住民の意見伺うと云うセレモニーと他人任せの姿勢としか受け止められず非情に遺憾に思います。

武庫川流域の洪水に対するネックとなって居る局所的な要因を抽出しても、何らその対策について検討されてなく、唯単にダムブームによりダム計画のみを考えて来たものであり、水系全域としての洪水対策を充分と検討されて無い事が解りました。

また、治水計画では対象洪水が10年確率とか30年確率との事を初めて認識し、余りにも低次元の洪水計画で些か驚きました。

従って僅かな集中豪雨でも各所に被害が出るのは当然の事です、10年確率と云えば一般的には小流域の計画とか、工事施工上での仮設工事として適用する程度の降雨量で、武庫川本流では少なくとも過去最大の降雨量に対する水系治水計画を基本として樹立すべきだと思います。

然し、現実を振り返れば局所的な問題を無視する事が出来ません、特に武庫川中流部のリバーサイド住宅地の問題ですが、これは問題以前に行政サイトでの縦割り行政の矛盾から住宅開発が許認可された結末です。

然し此处では上記の行政問題はさて置き、この洪水問題の解決を県当局は治水ダム計画で洪水対策を対応せんとされて居り、一方で住民は環境問題に事寄せてダム反対の社会問題として居りますが、これも人命第一優先は一体如何なっているのでしょうか？唯単に全国的なダム反対ブームでしか有りません。

然しダム計画は洪水ハイドログラフのピークカットには最も有効ですが、洪水位を下げる事での有効性は、他の工法もある事を行政当局並びに委員会で問題解決の検討されて居りますか？

更に、その他の局所的な問題も真剣に対応して全体計画の洪水確率年数を高くして計画を樹立する責務があります。

提案

そこで私案を提供しますが、未だ発想の段階でのソフト提案ですが、別図に示す様な洪水対策です、これは危険区域のみに限り対応する洪水ピークカットを行う工法で理論的には可能です、今後はハード面の検討を要し経済効果(被害資産など)の調査を行い、妥当な投資額算定の検討が必要です。

洪水位低下を目的とする余水吐バイパス(隧道)工法の提案 計画概要図添付
(課題と検討事項)

- ・ 地形上の現況河川流路から見て有効な流路線形計画となる。
- ・ 予め地形・地質調査を実施して適切な基点・終点を選択する。

- 対象洪水流量波型を十分に検討しピークカットの条件を検討する。
- 提案の呑口工の地点は地形的に可能で有り、水位調節小ダム、遊水池、流木止め工、更に上流に流砂防止工等を設置する必要があります。
- ショートカットに依る計画流路の延長は現況河川流路に対して約 1 / 3 となり、必要流量の流路設定には流速が可能で十分にバイパスに必要な流量を確保出来ます。
- 放水路は、本川流路と馴染むようにして河床洗掘・対岸浸蝕等の対策工法を充分と検討する。
- 計画工事に必要な用地費は比較的安価で済み、事業費が少ない利点があります。
- ショートカットの必要断面となる流量は、投資（工事費）と効果（水位低下）の両面を比較設計して検討しなければなりません。
- 更に、経済効果（被害資産）の調査を行い、この場合の経済効果の算定には被害区域防護のパラペットの嵩上げ費用、又は被害地区の移転補償費、或いは水害対策された共同住宅の建替え補償費等とその可能性の有無）から妥当な投資額の検討も必要です。
- 一方で治水ダム計画との費用の比較検討も行う必要も有ります。
- バイパス工法はトンネル工事工法とかシールド工事工法で余り公害問題も少ないと予想されます。
- 当バイパス工法では環境問題には問題が少ないと予測できます。
- 然し、河川法上の問題点は開削工法が原則ですが、洪水時のみでの防災用であって、その可能性を検討・協議する事を忘れる事は出来ません。
- また一方で、リバーサイド地点の水位低下を図る為には、二次的ながら下流で合流する太多田川からの流出土砂も無視で来ません、土砂かん止（武庫川本川に土砂を流出し河床が上昇に起因して本流が蛇行し本流合流点下流に堆積し河床が上昇して居る現況です）をして、河床低下を計り下流河道の河床の安定を図る事も必要でもあり、或いは河床低下させる河川工事も必要かも知れません。（別途の検討事項）
- その他には、リバーサイド地点の直下の狭窄蛇行部についても対策を講ずれば水位低下が幾分問題解決する事が出来るのではないのでしょうか？（別途の検討事項）

以上の例は、和歌山県那賀郡粉河町地先の紀ノ川水系左支川中津川と右小支川粉河川の合流点が住宅建設で河積が狭窄され被害があり、砂防事業としてトンネルバイパス工法で検討した事が有りますが、事業内容が砂防事業で目的に適さないので実施されて居りません。（和歌山県・岩出土木事務所管内）

また、愛媛県の肱川水系中流部右支川河辺川の上流で迂回流路をショートカットして開削での捷水路を建設した例が有りますが、これはオープン水路付け替え工法です。（元建設省・四国地建・肱川工事々事務所）

追記

シンボルマークに就いてのアンケートが有りましたが、この様な末梢的な課題に委員会は時間を費やして居られるのでしょうか？

もっと本質的な具体的な事項を取り上げて討議して戴きたい！ものです。

武庫川流域計画・リバーサイド地点の洪水対策(案) 2004.09.06. 提案者:大北

